

施設のご案内

パートナーシップ さいたま		ひとひと 女・男プラザ
場所	大宮区桜木町 1-10-18 シーノ大宮 センタープラザ3階	緑区中尾 1440-8 プラザイースト3階 ※浦和駅東口又は東浦和駅よりバス、 「緑区役所入口」下車
開館 時間	平日 9:00~21:00 土・日・祝日 9:00~17:00	9:00~17:00
休館 日	第4日曜日、年末年始	月曜日、年末年始
施設の利用		
男女共同参画の推進を目的とする活動に、ご利用ください。 (パートナーシップさいたまの会議室・プレイルームと 女・男プラザの団体活動室は、利用登録が必要です。)		
情報・資料コーナー、交流コーナー		
本や雑誌、行政資料、ビデオなどがあります。 閲覧、貸出しができます。ちょっとした話し合いに利用でき る交流コーナーもあります。		
お問い合わせ	パートナー 048-642-8107	048-875-9966

相談のご案内

- 女性の悩み電話相談  
女性の生き方、夫婦、親子の問題、職場や近隣の人間関係などの相談に応じます。  
パートナーシップさいたま ☎048-643-5813  
月～金/10:00～20:00 土・日・祝/10:00～16:00  
ひとひと女・男プラザ ☎048-875-9653  
金/10:00～17:00  
浦和区役所 女性の相談室 ☎048-829-6129  
月・火・水・金/10:00～17:00  
中央区役所 女性の相談室 ☎048-840-6132  
月・水/10:00～17:00  
岩槻区役所 女性の相談室 ☎048-790-0158  
月・水/10:00～17:00
  - 女性のための法律相談(予約制)  
女性の弁護士が相談に応じます。  
パートナーシップさいたま ☎048-642-8107  
第2・第4水曜日/13:00～15:30  
ひとひと女・男プラザ ☎048-875-9966  
第1・第3火曜日/13:00～15:30
  - 女性のための心の健康相談(予約制)  
専門の女性の医師が相談に応じます。  
パートナーシップさいたま ☎048-642-8107  
第4金曜日/13:30～16:15
  - 男性の悩み電話相談  
男性の生き方・仕事・家庭・夫婦・人間関係などの相談に応じます。  
パートナーシップさいたま ☎048-643-5805  
第2・第4火曜日/18:30～20:30(祝休日は除く)
- ◆相談は無料です。◆秘密は厳守します。

●女性のDV電話相談

DV相談センター ☎048-642-6699  
月～金/10:00～17:00(祝日、年末年始は除く)

ほっとたいむ

春ですな～!!  
春は別れや新たな出会いの季節と言われ  
ていますが、私にとっての春は「花見」で  
す。天気予報で桜前線が報じられるよう  
になると落ち着きません。この辺りの開花宣  
言はいつ頃であるのだろうと毎日の開花宣  
言ながら、花見の予定をたてます。そして見  
頃をむかえんと忙しくなります。天気が良  
ければ朝の片付けもさそこに出かけます。  
隅田川や神田川といった川沿いの桜並木が  
好きなのですが、近頃は見沼代用水の西縁  
が気に入っており、東京の桜が終わった後  
に歩きます。延々と続く並木、素晴らしい  
眺めです。道中には菜の花や雪柳等々、草  
花も咲いています。また、川面に散った花  
びらの花びらが風が吹きます。間もなく桜  
の季節がやってきます。さて、今年は何か  
所巡りしましょう?楽しみます。(深堀 樹)

老眼鏡のお世話にならないと字がよく見  
えなくなつて、かなりたります。  
字が見えなくなつたり疲れたりして本を読  
むことがつとつと難しく、新聞も大きな見  
出しを見て気になったところを読むような  
生活でした。そんな時「ブックトーク」や  
「ブッククラブ」に参加するようになって  
強制的に読むようになり、仕方なくでも読  
んでいるうちに本の面白さ楽しさを思い出  
し、最近では図書館に行つて様々なジャン  
ルの本を借ります。絵本を借りて家で自分  
に読み聞かせのように声を出して読んでい  
ます。「ブックトーク」では決められた本  
を読んで話して話し、話し、話し、話し、  
自分であきらめてしまったことができるよ  
うになると気分も明るくなり、今では読書  
を楽しむことができるようになりました。  
これからも続けていきたいと思つています。  
(武田 礼子)

広報誌「鐘の音」のご感想、ご意見をお寄せください。  
郵便、FAX、E-mailでパートナーシップさいたままで  
お願いします。

パートナーシップさいたま広報誌「鐘の音」vol.37 2017年3月25日発行  
＜編集・発行＞  
さいたま市男女共同参画推進センター(愛称 パートナーシップさいたま)  
編集員/河西純恵・新藤賢十郎・武田礼子・深堀樹・三澤裕子  
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-10-18シーノ大宮センタープラザ3階  
電話 048-642-8107 FAX 048-643-5801  
E-mail: danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp

◆ホームページもご覧ください◆

9・3月発行(年2回) この広報誌は3,500部作成し、1部当たりの印刷経費は17.6円です。

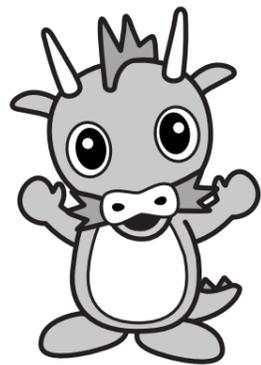
パートナーシップさいたま広報誌  
(さいたま市男女共同参画推進センター)

# 鐘の音

～かねのね～



大宮の古い地名「鐘塚」に建てられた「パートナーシップさいたま」から、  
男女共同参画推進の鐘の音を響かせたい、その願いを込めて名づけました。



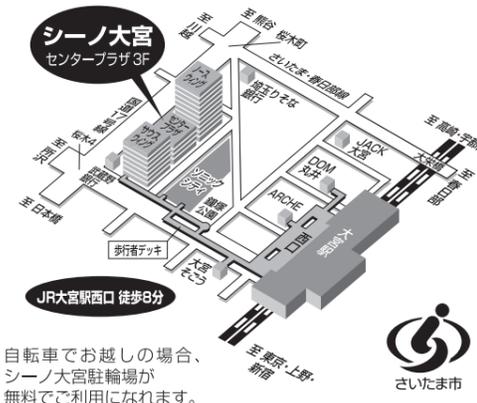
Vol.37  
2017.3発行



©Mayumi Noda

特集 平成29年度実施事業のご案内

- 第16回「女・男フェスタさいたま」を開催しました ..... 3
- セミナーレポート ..... 3
- 発見!さいたまで光るひと 第2回  
磯部幸江さん(女性学研究会) ..... 4
- コラム『変わりゆく男性の仕事と暮らしぶり』 ..... 5
- Book Navi 図書のご案内 ..... 5
- 施設・相談のご案内/ほっとたいむ ..... 6



自転車でお越しの場合、  
シーノ大宮駐輪場が  
無料でご利用いただけます。



さいたま市



# 平成 29 年度実施事業のご案内

さいたま市では、『第3次さいたま市男女共同参画まちづくりプラン』に基づいて、男女共同参画社会の実現に向け、各種講座・講演会等を実施します。その中で、平成29年のおすすめ講座を一部ご紹介します。

7月

## 男女共同参画週間記念事業

ココロにあるいろんな気持ちを発見～「伝えるカード」をつくるワークショップ～

「コミュニケーション」は得意ですか？大切だと思っけていても、つい身構えたり苦手意識を持ってしまったり。このワークショップを通じて、自分のどんな気持ちにもOKを出し、自分らしい伝え方を考えましょう。

- ◆日時 平成29年7月1日(土) 14時～16時
- ◆会場 桜木公民館 講座室1、2
- ◆対象 市内在住、在勤、在学の方、市内近隣で関心のある方(小学生同伴も可能です)
- ◆定員 50名(申込順)※未就学児の託児あり
- ◆ファシリテーター◆ NPO法人ぶるすあるは  
北野 陽子さん(精神科医)、細尾 ちあきさん(保健師)

8月

## 多様性を認め合う 優しい社会とは

私たちが様々な「多様性」の中にいることを改めて認識し、「すべての人」が心地いいと感じる生き方について考えてみませんか？

- ◆日時 平成29年8月3・10・17日(木) 19時～21時
- ◆会場 パートナーシップさいたま 会議室3
- ◆対象 さいたま市在住・在勤・在学で、全3回出席できる方
- ◆定員 24名 ※未就学児の託児あり

5月

## 起業プレゼン講座

「起業」を漠然と考えている方にとって最初の一步とするために、受講者がプレゼンテーションも行う実践型の講座です。過去の卒業生には、さいたま市ニュービジネス大賞の受賞者も出ています。

- ◆日時 平成29年5月29日、6月5・12日(月) 10時～12時
- ◆会場 パートナーシップさいたま 会議室3
- ◆対象 さいたま市在住・在勤・在学で全3回出席できる起業のアイデアがある女性
- ◆定員 24名 ※未就学児の託児あり

### HPのご案内

講座のお申込み時期、その他の実施講座については、市報さいたま、パートナーシップさいたまのホームページ(<http://www.city.saitama.jp/006/010/002/004/index.html>)などで随時お知らせしますので、ぜひご覧ください。右のQRコードからURLを読み込むこともできます。



### メールリストのご案内

※パートナーシップさいたまから、月に1回程度、講座のご案内等をメールにて配信しています。ご希望の方は [danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp](mailto:danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp) までご連絡ください。右のQRコードからメールアドレスを読み込むこともできます。



コラム

## 『変わりゆく男性の仕事と暮らしぶり』

少子・高齢化の進展、経済成長の鈍化(成熟化)、情報通信の高度化、地域社会の変化等により、日本は経済成長中心の社会から、男女がともに社会と家庭に参画し、責任を担う社会へと変化しつつあるように見えます。しかしながら現状では、「男は仕事」「女は家庭」という社会通念に変わりはなく、多くの男性は一家の担い手として会社に忠誠を誓い、家族との生活を犠牲にして、残業も日曜出勤も厭わずに企業戦士として長時間労働をして過労死寸前まで働いています。それにもかかわらず、定年で家にいるようになると、妻からは「粗大ゴミ」とも「濡れ落ち葉」とも揶揄される存在になっているのです。

その一方、近年では若い世代を中心に、男性も仕事と仕事以外の生活(家事、育児、家族との時間、地域活動等)のバランスを大切にしたいという人が増加しつつあります。家事、育児をする「カジダン」(家事に積極的に取り組む男性)、「イクメン」(子育てを楽しみ自分自身も成長する男性)と言われる男性の登場です。

社会通念から解放され、家庭や地域で自分の個性や能力を発揮する男女共同参画社会を実現しようという動きが出てきています。新しい生き方を選択することによって男性の仕事や暮らしぶりは変わってきたと言えるでしょう。

しかしそれだけで、男性と女性の間にかかる葛藤がなくなる日が来るのでしょうか？男女共同参画社会の実現は、21世紀の最重要課題であります。(新藤 賢十郎)

BookNavi

情報・資料コーナーで貸し出ししている図書のご案内です。

女性の社会進出により、男社会・会社組織の中で戸惑う女性も少なくありません。どうしてこのような社会になっているのか、どうしたら女性も男性も共に助け合って自分らしく生きられるかを考えるきっかけになる本を紹介します。(武田 礼子)

### 『父子家庭が男を救う』

重川治樹著 論創社(2012)

突然妻が家を出ていった夫の体験談。離婚によって男性でありながら男性社会の差別に逢い、父親として子ども、学校、地域の女性たちとの関わりに悩み、「家事を知り、子育てを知ることでは男は救われる」と提案しています。



### 『性と法律—変わったこと、変えたいこと』

角田由紀子著 岩波新書(2013)

法は男女に平等だと思っていました…。再婚したくても再婚禁止期間があるなど、女性は離婚などの身近なことで法により縛られていることを知りました。女性が男性と平等に生きる難しさを考えさせられる一冊です。

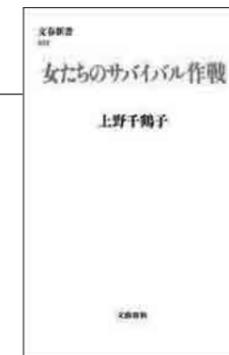


### 『女たちのサバイバル作戦』

上野千鶴子著 文春新書(2013)

少子化による「就労圧力」の中、封建的な男性中心の職場へ投げこまれる女性たち。育児・介護の法整備はできていても、実際は企業指導に留まっており、男性の取得は僅少です。

女性は正社員・パートなどで働いていても、家事・子育てなどから解放されることはありません。これまで女性が置かれてきた状況を知り、これからの働き方、生き方を考えることを示しています。



## 発見! さいたままで光るひと



磯部 幸江さん(女性学研究会)

女性学研究会事務局として、市民企画講座を実施、学習会や手織り等幅広く活躍されている磯部幸江さん(さいたま市在住)にお話をお伺いしました。中学校の家庭科教員として32年勤務され、家庭科の男女共修を進める運動にも参加されました。

——女性学研究会を起ち上げた経緯と、その時のお気持ちをお聞かせください。

2006年(平成18年)にパートナーシップさいたまで女性カレッジを受講したのですが、講座が終わる時に講師からグループを作ることを勧められて手を挙げました。さいたま市に女性が集まれる場所があればいいと考えていたし、地元でつながりを持ちたかったのです。

——2014年(平成26年)からパートナーシップさいたまでブックトークをされていますね。

女性学研究会として年2回学習会を開いていたのですが、年3~4回に回数を増やしてブックトークを始めました。年齢や暮らし方によって思いはさまざま、本でテーマを決めて思い切り話し合うのもいいなと考えました。

パートナーシップさいたまを利用することにしたのは、もっといろんな人に知ってもらって利用して欲しいと思ったからです。会議室利用料がかかるので、使いやすいわけではないんですけどね。本当はいろんな世代の人が気軽に集まれる場所になって、女性学研究会のことや他の講座とか催し物、施設のことを知って欲しいです。また、小さな子どものお母さんが悩みがある時に思い浮かべて、積極的に相談してみるとか、打ち明けられる仲間を作りたいと思います。

パートナーシップさいたまには、グループ作りの支援をして欲しいですね。悩み事を解決したり希望を叶えるための、相談やお手伝いもして欲しいです。

——少女の頃はどんなことを考えたり感じたりしていましたか?それは成長する中でどのように変化したのでしょうか?

本が好きで、本の世界に憧れる夢見る夢子さんでした。一方で経済的に自立したいとずっと思っていました。母子家庭で母の実家で暮らしていましたが、実家に居られなくなった時、経済力のない母は再婚するしかありませんでした。いつも夫に気を使っていて…自分はそうはなりたくない、自分のことは自

分で決めたいとずっと思っていました。

——1人の女性としてこれからどういった生き方をしていきたいですか?

無理はしないで身の丈にあった生活をしたいと思っています。その上で活動を続けたい。何事も外に出て行動に移さないと始まらないですから。

——女性学研究会として今後チャレンジしたいことはありますか?

活動を続ける一方で「仕舞い方」も考えています。年齢的にね。これからは自分のことよりも仲間のやりたいことを応援していきたいです。

同じ女性でも年代や立場で問題が全く違います。困難でも乗り越え方は行動してみないとわかりません。面倒がらずに人との出会いやつながりを求めて行ってみる、人に会ってみる、そして聞いてみる。とにかくチャレンジして欲しいです。問題解決の参考になる経験者に必ず出会えます。私自身も、人に会うことが好きなので活動を楽しんでいます。新しく人に会う度にいろんな考え方や感じ方を知ることができるし、刺激になりますから。



これまでの人生でご苦労もなさったはずなのに、格差や不平等に不満や怒りを持ちながらも表には出さず、終始さわやかにお話してくださいました。「自分の力で歩こう、努力しよう。よっしゃ、頑張ろう!」と心新たにする思いでした。(聞き手:河西 純恵)

## 第16回「女・男フェスタさいたま ~ともに輝こう 女(ひと)と男(ひと)~」を開催しました

日程:平成29年1月29日(日)・30日(月)

会場:シーノ大宮センタープラザ10階 多目的ホール

2日間にわたって開催された「女・男フェスタさいたま」では、講演会や映画上映に加え、男女共同参画推進団体による写真やリサイクル品利用の手芸品展示、アトラクション、ワークショップやステージ発表が行われました。また、パートナーシップさいたまが平成28年度に主催した講座・講演会について展示いたしました。



## ●初日講演会「世界がもし100人の村だったら」

~52人が女性、48人が男性です~

講師 池田香代子さん(作家・翻訳家)

池田香代子さんは、著書『世界がもし100人の村だったら』がベストセラーとなり、その印税で「100人村基金」を設立し、難民救済などの活動をされています。著書の紹介や国内外における貧困の現状など、映像も盛り込んだ分かりやすいお話で、いろいろと考えさせられる講演となりました。



## ●2日目 映画「夫婦フーフー日記」(出演:佐々木蔵之介、永作博美ほか)

実在の闘病ブログを書籍化した「がんフーフー日記」が原作です。必死に駆け抜けた493日間と、そこからはじまる未来。ユーモアたっぷりに、あたたかな涙に包んで贈る夫婦の愛の物語です。

両日共に好天に恵まれ、多数の方の参加があり盛会の中に閉会いたしました。(深堀 樹)

## セミナーレポート

パートナーシップさいたまが主催したセミナーをご報告します。

## DV防止セミナー「DV防止法で変わったこと、さらに変えたいこと」

11月26日(土)、生涯学習総合センターで「DV防止法」の成立に関わった弁護士・角田由紀子さんの講演会が開催されました。

講演はご自身が関わった「DV」という略語誕生の経緯から始まり、2001年の「DV防止法」成立と、法の制定後も改正を重ねた内容へと移りました。

「DV防止法」の制定による収穫として、「夫婦喧嘩」で片付けられていたものが、相手への暴力と定義され、人々の認識に変化が生まれたことが第1に挙げられました。他に、警察の介入が可能になったことなどがありますが、法的効力として最も注目されるのは、加害者の行動を制限する「保護命令」を、裁判所が下す点でしょう。加害者には被害者への「接近禁止命令」と住居からの「退去命令」が命じられます。

ただ、こうした処置で万全というわけではなく、実

状は多くが離婚裁判と絡むため、子どもがいる場合は加害者(父親)の権利を主張する他の法律と矛盾が生じ、新たな問題が生まれているそうです。

また、「DV防止法」と名付けられていながら、防止策は制定されておらず、DV被害への事後対応策ではないこと。加害行為への「処罰法ではない」という事実が目覚める思いがしました。

講演は、力強さや男らしさという価値観の中に「暴力」を肯定・正当化する意識が潜んでいることに及び、私たちの日常に広く深く浸透している無意識の「性別役割分業」や、社会的な意志決定を男性に独占されている社会構造、性の売買、女性の貧困、次世代教育の必要性についても鋭く切り込まれました。

変えるべき意識面と社会構造を知ることになり、課題の多さに考えさせられた講演でした。(三澤 裕子)